

九大病院だより

九大病院だよりは患者さん向けの広報誌です。ご自由にお持ち帰り下さい。

医療の質向上に臨床研究センター設立

3病院（九州大学医学部附属病院、同歯学部附属病院、同生体防御医学研究所附属病院）を統合合併した九州大学病院に新しく「臨床研究センター」ができました。いろいろな医学研究の成果を早く臨床現場に役立てようというもので、センターの組織は臨床研究の実施部門を中心に研究をサポートする専門医125人の臨床研究支援部（100人部会と称します）、薬品等管理部門、コーディネーター部門、患者さんたちや医療機関および市民などに幅広く知らせる広報部門、医師を育てる教育研修部門、事務部門など6部門があり、職員は中西洋一センター長ら30人規模です。

センターの柱となる業務は①新薬の開発②保険薬の効果的な使用法③遺伝子治療や再生医学など最先端医療の支援などです。これまで新薬開発の治験事業は7割が外国に頼っていましたが、これからは九州大学病院内や医学部などで精力的に行い、年間2億5,000万円程度だった実績を倍増する計画が目標です。現在、使っている保険薬もその効果的な使用法を探る研究を進めます。さらに、固形がんの治療法である細胞療法や世界でも初めてというセンダイウィスルを使った閉塞性動脈硬化症など血管疾患の遺伝子治療の支援などにも取り組む予定です。

大学病院の目的が教育、研究、診療にあることから、センターでは臨床医の免許制という全国でもユニークな制度を設け、人間味のある医療を身につけた臨床医の育成に力を入れることにしています。これは、治療に携わる医師を対象に臨床研究講習会を開いて、医師としての在り方を徹底して教え、試験を行って免許を与えようというものです。

また、開かれた大学病院にするため、産・官・学が提携して研究を進め、研究成果をはじめ医学、医療の情報はインターネットなどで外部に積極的に公開するほか、患者さんとのコミュニケーションを大切にするなど地域展開を積極的に進めて行くことにしています。中西センター長は「医学、医療を基礎研究の場からベッドサイドに迅速に活用するとともに、臨床研究を論理的で透明性の高いものにして、患者さんの理解と協力を得ながら、信頼される臨床研究を展開していきます」と言っています。



コラム

まめなかね。

山陰地方のある病院を訪問した時、そこで「まめなかね」という機関紙に出会ったことがあります。「まめなかね」とはお元気ですかという意味ですが、何と心安らぐ響きでしょう。その小冊子では一病息災といいつつ、病と共存しながらも楽しく生活していらっしゃるご老人の様子や体験談、医療従事者の日々の熱情的な仕事振りなどが何えました。私どもの病院だよりも「まめなかね？」と呼びかける冊子にしたいと思います。

さて、私事で恐縮ですが、かつて手術を含めて3週間ほど他院での入院生活を体験いたしました。このときはすっかり逆の立場を味わうことになったのです。職業柄、入院中では看護師の一挙手一投足に自然と目が行きます。自分ならこうする、ああするなど心で思いながら、やさしくもきびしい目です。

看護部長 尾首 睦美

MESSAGE from Mutsumi Okubi

かり患者体験を味わいました。

ここで分かったことは、患者の立場は決して思っていることの半分も言えずにがまんしているということ、医療従事者のやさしい言葉ほどほっとするものはないということでした。いまだに古傷が気になる日常ですが、見方を変えれば入院の体験は大きな収穫でもありました。

「下り坂、回れ右すりゃ上り坂、目の位置変えればピンチもチャンスに」

筑豊の詩人、山本良樹氏の日めくり詩集の言葉を励みに、本日も看護師たちとともにがんばってまいります。

みなさん、まめなかね？



当科は明治39年に誕生しました。以来、100年にわたり、幅広い内科疾患の臨床と研究を行って参りました。特に第4代勝木司馬之助教授が久山町のご協力によりスタートした疫学研究は、世界的な評価を受けております。

現在の診療は、飯田三雄教授のもとで、消化器疾患、脳卒中、腎疾患、高血圧を中心に、糖尿病、内分泌、肝疾患の診療も行っていきます。約40名の医師が、東6階病棟、中央6階病棟、南4階病棟(腎疾患治療部)を中心に診療にあたっており、外来診療は、新患外来が月曜から金曜まで毎日、また、専門再来も設置しております。外来診療の詳細につきましては当科のホームページ(<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/intmed2/>)をご参照下さい。

診療内容では、消化器疾患に対して、年間1400例の消化管X線検査、年間3000例の消化管内視鏡検査を行っており、さらに、内視鏡を用いた粘膜切除術やポリープ切除術、さらにITナイフや白血球除去療法といった新しい治療法も積極的に行っております。また、脳卒中や腎疾患に対して、急性期から慢性期にいたるまで幅広い診療を行い、さらに、これらの循環器疾患の危険因子である高血圧や糖尿病に対する総合的な医療を行っております。一人の患者様が複数の疾患を持っておられることは多く、各疾患の専門医が協力しながら一人一人の患者様にとってベストの診療を行っていきたくと考えております。

(第二内科 教授 飯田 三雄、医局長 北園 孝成)

高血圧症 早期診断、治療のために

高血圧症は最も頻度の高い疾患で、心血管病の重要な危険因子のひとつです。しかしながら症状に乏しいため(多くの場合、無症状です)治療されていない例も多く、次第に動脈硬化が進行し、脳卒中、心筋梗塞、腎不全などを引き起こします。一方、降圧治療によりこれらの心血管病の発症のリスクは確実に減少します。したがって、心血管病の予防には高血圧症を早期の段階で診断し、治療することが重要です。

実際には、診察室での血圧が最高血圧で140mmHg以上、もしくは最低血圧で90mmHg以上の場合に高血圧症と診断されます。最近普及してきている家庭血圧計での血圧測定も、高血圧の診断に際しては有用な情報となり、治療効果の参考になります。家庭血圧の測定に際しては、上腕にカフを巻くタイプの血圧計を用いて(手首や指先にカフを巻くタイプの血圧計は姿勢などにより正確に測れない場合があります)、お勧めできません。)座った状態でカフを心臓の位置で巻いて、数分間の安静後に測定します。血圧は活動状況や時間帯などにより変動しますので、例えば、早朝の朝食前(排尿後、服薬前)や就寝前に測定するなど、一定の条件下で測定すると経時的な比較がしやすくなります。家庭での血圧値の解釈に際して注意が必要なことは、一般的に家庭血圧は診察室での血圧に比べて低めであり、したがって、診察室血圧より低めのレベルから高血圧と診断されることです。ちなみに本邦の高血圧ガイドラインでは家庭血圧が135/80mmHg以上の場合に高血圧とされており、この値を超えるようであれば注意が必要です。

血圧が高めでしたら、塩分制限、減量、節酒、運動療法などの生活習慣の修正が必要ですが、降圧薬で早急に血圧を下げる必要がある場合や、原因を調べる必要がある場合もありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

(第二内科 教授 飯田 三雄 高血圧症担当医 藤井 弘二、連絡先:092-642-5300)



家庭血圧の測定は
上腕型家庭血圧計を用いて、座位で、カフを心臓の高さに巻いて、数分間の安静後に測定しましょう。
測定条件は例えば
朝:起床後1時間以内、排便後、朝食前、服薬前、座位安静後
夜:就寝前、座位安静後
その他、都合の良い時間帯や自覚症状がある時などに測定を行って下さい。

新年あいさつ

新年明けましておめでとうございます。

九州大学病院は、3病院を統合して1275床となり、21世紀の医療をリードする高次の包括医療を目指す総合病院となりました。特に患者さんを包括的に診療出来る医師・歯科医師・コメディカル・コデンタルの人材を育成します。臨床研究センターを中心に倫理の透明性を高め、より質の高い創薬、先端医療の開発と、ゲノム変異を基盤とした疾病の予防を含めた臨床医学研究を進めます。その結果、個性を重視した生活の質(QOL)と日常生活行動(ADL)の向上を目指した調和の取れた高度先進医療を推進し、地域連携室を中心に入退院支援を通して地域医療に貢献し、かつアジア諸国との連携を深めて行きます。

特に患者さんにわかりやすく、愛される病院になるべく職員一同頑張っておりますので宜しくお願いします。

(病院長 名和田 新)



ソウルと画像診断

九州大学病院は玄海潜の海底光ケーブルを通し、600km離れた韓国ソウルの国立がんセンターに内視鏡手術の様子をリアルタイムで送信しました。アジアに開かれた医療を目標にする本院が「日本の医療を学びたい。」という要望に応えたものです。

内視鏡手術は腹部を大きく切らずにできる最先端手術で、患者さんにとって傷がきれい、手術後の痛みが少ない、回復が早いなどのメリットがあります。この超高速インターネットを使った画像診断システムは、いながらにして遠隔地の手術が手にとるようにはっきり見え、経過を詳細に観察することで論文を読む以上に多くのことが学べます。

手術は通常どおり行われ、患者さんには特別な危険を伴うこともなく、またプライバシーも十分保たれます。

今後、本院はこのシステムが国境を越えた内視鏡手術の普及に大いに貢献できるだけでなく、日韓両国の優れた分野をお互いが学びあっていくための方法として利用されることを期待しています。

(光学医療診療部助教授 清水 周次)



病院地区 建物紹介

ガスタービンコージェネレーションシステム

災害時における防災電源装置の実現

災害拠点病院として指定されている本院では、地震等大災害時に電力会社より送電が停止した場合でも病院としての機能を維持管理するため、停電した瞬間より無停電電源装置が作動、その後ガスタービンコージェネレーションシステム及び非常用発電機の電源装置が作動し、病院の心臓部に当たる手術部をはじめ産母子、ICUなど救急部関係や非常用電灯、非常用エレベーター等へ約3日間、防災電源の供給を実現します。

特に、ガスタービンコージェネレーションシステムは、平常は常用発電設備として電力負荷の軽減、ピークカットに寄与すると共に省エネ対策として、排熱回収を利用して蒸気滅菌及び空調等の熱源として供給しています。

主燃料は都市ガスですが非常時には、自動的に特A重油に切り換え運転が出来る態勢を整え、電源の安定供給を実現します。

(事務部経理課 田中 廣幸)



●ガスタービンコージェネレーション装置



●タービン本体

※奨学寄付金とは、教育・学術研究の奨励及び病院運営の助成等のため、個人・法人等から寄付金として受け入れるものです。詳しくは、左記掛へお問い合わせ願います。

用語解説 気になる医療・医学の言葉

◇「セカンド・オピニオン」とは？ 直訳すれば、第2の意見という意味です。現在診療を受けている医師とは別の医師、医療機関にも診断を受け、意見を求めることです。

日本でも代替医療と共に患者主体の医療として広まりつつあります。



ISO9001について

薬剤部は2003年10月、国際規格ISO9001の認証を取得しました。薬剤に関わる医療事故を防止し、安全で有効な薬物療法を提供するうえで、薬剤部には大きな責任があります。そのために、医薬品の適正管理、処方へのチェック、間違いのない調剤、正しく使用・服用するための情報の提供、副作用の早期発見に努めています。しかし、品質の高い薬剤業務サービスを提供していくには、組織的な管理システムを構築し、的確な運用と継続的な改善を続けていかなければなりません。ISO9001は品質管理の仕組みが信用できる水準にあることを示す国際規格です。薬剤部では「良質な薬剤業務サービスの実施」と「専門的知識の向上活動」を理念として掲げ、日々取り組んでいます。(薬剤部教授 大石 了三)

医療トピックス (新聞等に掲載されたニュース等をお知らせします。)

◇新型肺炎を20分で検出 検査薬メーカーの栄研化学(本社東京)が、患者から新型肺炎「重症急性呼吸器症候群」(SARS)の原因ウィルスを約20分で検出する新しい迅速診断キットの基礎開発に成功したと発表した。

診断キットは血液やのどの粘液などを試薬に混ぜて約65度で保管すると、15-30分後に試薬が濁るかどうか目視で判定できるという。これまでは判定に約半日かかっていたという。(毎日新聞)

外来診療日一覧

ご用件がありましたら、下記の診療科等に直接お電話願います。(市外局番は「092」です)

階	科名(電話番号)	初診日	再診日	階	科名(電話番号)	初診日	再診日	診療施設等	電話番号
1	総合診療部 (642-5300)	月~金	月~金	1	第二外科 (642-5479)	月・水・金	月・水・金	救急部受付	642-5873
1	内科(初診) (642-5300)	月~金	月~金	1	整形外科 (642-5504)	月・水・金	金	時間外受付	642-5163
2	内科(再来) (642-5302)			2	脳神経外科 (642-5533)	月・水・ 金	月・水・ 金	総合外来受付	642-5138
1	先端分子細胞治療科 (642-5996)	月~金	月~金	2	心臓外科 (642-5565)	月・ 木	月・水・ 木	入院受付	642-5149
2	心療内科 (642-5335)	月・木	火 水 金	2	小児外科 (642-5578)	月・水・金	月・水・金	公費申請受付	642-5185
2	神経内科 (642-5349)	火 木 金	月・水	2	皮膚科 (642-5596)	月・水・金	火 ・ 木 2月1日から	地域医療連携室	642-5165
2	循環器内科 (642-5371)	月~木	月・水	2	泌尿器科 (642-5615)	月~金	月・水・金	支払い窓口	642-5169
2	呼吸器科 (642-5388)	月・水・金	月・火 水・金	1	精神科神経科 (642-5640)	火 ・ 木	月 水 金	リハビリ受付	642-5862
2	産科婦人科 (642-5409)	火・木	月~金	2	眼科 (642-5660)	月・水・金	月~ 金	医療相談	642-5914
2	周産母子センター (642-5900)			2	耳鼻咽喉科 (642-5681)	月~ 木	月 水 金		
2	小児科 (642-5430)	月~金	月~金	1	放射線科 (642-5705)	月・水・金	月~金		
1	先端医工学診療科 (642-5993)	月~金	月~金	2	麻酔科蘇生科 (642-5719)	月・水・金	月・水・金		
1	第一外科 (642-5453)	火・木・金	火・木・金						

※○印の曜日は予約が必要です。

- 休診日
土曜日、日曜日、祝日、
年末年始(12/29~1/3)
- 受付時間
8:30~11:00
- 外来玄関開閉時間
7:00~18:00

- 注
- 予約がある場合はこの限りではありません。
 - 再来の方でも、1年以上受診されていない場合には、初診の曜日・時間となる場合がありますので、あらかじめ受診科「外来」にお確かめ願います。

(代表) 092-641-1151



病院にお越しの際は保険証をお忘れなく!

※保険証の提示がない場合には、保険の取扱いができないことがありますので、予め御了承願います。

ご意見・ご感想を電子メール(ibskoho@jimu.kyushu-u.ac.jp)
または外来棟玄関の「ご意見箱」にどしどしお寄せください。お待ちしております!